

玉出駅(地下鉄四つ橋線)

こつまなんぎん

勝間南瓜のふるさと・玉出を歩く

岸里玉出駅(南海本線・高野線)

「大阪あそ歩マップ集」
その3 No.136

地下鉄玉出駅

① 会津屋(玉出本店)

昭和8年(1933)に今里で創業。当初はメリケン粉にコンニャクや天カスを入れて焼くラジオ焼の屋台でしたが、昭和10年(1935)に明石の玉子焼をヒントにたこ焼きを考案。たこ焼きの発祥店といわれています。紅しょうが、ソース、青海苔などは使用せず、一口サイズなのが特徴です。平成5年(1993)に現在地に移りました。

② 世界のお酒 ニューヨーク

平成元年(1989)創業。お酒の総合専門店ですが、勝間南瓜の種子が発見されたことを受けて玉出地区のまちおこしに貢献したいと「こつまなんぎん焼酎」を開発。現在では天王寺蕪や田辺大根といった焼酎も開発・販売しています。

③ 生根神社

生根神社の創建は不詳です。社伝によれば蛭児命を祀る有喜惠美寿社でしたが、住吉・生根社の少彦名命の御分霊を受けて、勝間村(玉出)の産土神として奉祀しました。毎年、夏祭(7月24日、25日)には「だいがく」が出ます。貞観15年(873)に一带が旱魃に遭い、御神燈と鈴をつけた櫓を打ち立てて祈願をすると大



雨が降り、それが「だいがく」のはじまりといえます。江戸末期には玉出に14基ありましたが、時代の流れ(戦災など)で消失し、現在は1基(大阪府指定有形文化財)のみです。櫓の高さは約20メートル。

④ こつま南瓜塚

かつて生根神社界隈は勝間村といい、その村の名産が勝間南瓜で、それを記念した塚です。有名ななにわ野菜で、勝間商人によって勝間街道を使って大坂に行商されました。中風除け、風邪除けに冬至によく食べられたそうので、生根神社ではいまでも毎年、冬至には「勝間南瓜神事」が行われます。

⑤ 光福寺

嘉祥元年(848)、小野篁の発願で奈良興福寺別院として創建。元応元年(1319)、信徒の要請で現在地へ移されて光福寺と改め、元弘2年(1332)に真宗寺院となりました。江戸時代には勝間御堂と称され、当時は大名と同等の資格を有したといわれていま

す。昭和20年(1945)に戦災に遭い、現在の寺院は昭和28年(1953)に再建されたものです。

⑥ 玉出中学校(玉出遺跡)

昭和28年(1953)設立。昭和31年(1956)、生物クラブの教諭の指導の下、20数名の生徒が、学校東側の地下鉄四つ橋線(岸里～玉出間)の延伸工事の現場で掘り出される土砂の中に、土器や貝類があるのを見つけました。以来1年間、生徒たちは工事現場へ行き、土砂を調べた結果、約80種類の貝類をはじめ、紀元前1世紀から奈良時代までの土器30数点を発見しました。その中には墨書人面土器と呼ばれるめずらしい土器も含まれ、発掘物は現在、校内に保管されています。



地下鉄玉出駅

